



福島医大ふくしま子ども・
女性医療支援センター教授

横山 浩之氏

うです。すなわち、ヒトと関わることの楽しさを教え、正しい考え方を教えることです。なお、甘やかしは逆効果になります。

今回は、今年三月十九日掲載の本コラムで取り上げたメディアの問題を再度取り上げます。世界保健機関（WHO）はさまざまの病気の分類や診断の目安として、疾病および関連保健問題の国際統計分類（ICD）を定めています。その新版ICD11で、ゲームに対する依存症が正式に取り上げられました。依存症と言えば、アルコール依存や覚醒剤依存のことがすぐ思い浮かぶと思いますが、これらと同じ状態であることを意味しています。ゲーム依存症は、アルコール依存などと異なり小児期でも依存しう

るので重篤化しやすいのです。五歳の坊やがペットが死んだのを見て、「パパ、電池入れ替えてよ」と話した事例が報告されていましたが、既に立派な依存症です。

依存症とは、身体的、精神的、社会的な幸福に反する結果を招くにもかかわらず、薬物や不適切な行動を反復してしまう状態を指します。大量か

も、対象に執着し続けます。依存症における心理学的な特徴に、衝動性があります。良くない結果をもたらすこととなつて

によれば、依存症の一番の原因是、安心してヒトに依存できないからだと思います。ヒトに依存できうです。ヒトに依存できく、身体を使った遊びがないので、自らの生きづらさを薬や酒、メディア

遊びを親子で楽しみましょう」と提案しています。モノで遊ぶのではなく、身体を使った遊びがヒトと関わることの楽しさを教えることにつながります。メディアを制限するためには、他の楽しみの保証が大切であることを知っておきましょう。

ヒトとの関わり大切

る依存症が正式に取り上げられました。依存症と

な依存症です。

依存症とは、身体的、精神的、社会的な幸福に反する結果を招くにもかかわらず、薬物や不適切な行動を反復してしまう

状態を指します。大量か

も、目の前の依存対象に執着するために、手っ取り早い行動を取ってしまいます。例えば、電車内

での携帯電話の通話を注意され、暴力事件に及ん

でしまいます。依存行為を阻止されたために、衝動的な行動を取ってしまうのです。

そして、精神的・肉体的・社会的問題が起こっています。国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦氏は、メディアとのつきあい方のところで、「自然に親しむ・土に触れる